

2016年3月期 第1四半期 決算カンファレンスコール 主な質疑応答（要旨）

Q1 第2四半期以降の業績見通しについて教えてください。

- 第2四半期以降について、上期の計画利益はやや強気な計画ではあるものの、達成可能な範囲内であると考えております。  
これは、第2四半期以降、新商品の宣伝広告費をはじめとした一時費用の影響がなくなる点、既存の宅急便の取扱数量が伸びることで増収が見込まれる点、生産性向上の取組みによるコストコントロールの効果などを考慮したものです。
- 宅急便の数量については、通期予想において、前回予想より5,000万個引き下げ一方、単価については前回予想から17円引き上げております。  
足元の状況を踏まえ、新商品による個数の伸びは期首計画に比べ若干弱めに見ております。
- クロネコDM便の数量については、通期予想において、前回予想より5,000万冊引き下げ、単価については前回予想を据え置きました。  
市場の縮小や競争環境の激化もございますが、営業キャンペーン等を行い取扱数量の巻き返しを図ってまいります。

Q2 新商品（宅急便コンパクト、ネコポス）の取扱状況を教えてください。

- 第1四半期における新商品の取扱状況については、期首計画には未達の数量となりました。これは、コンビニエンスストアなどの発送窓口の拡充が6月終盤となり、収益への貢献が第2四半期以降にずれ込んだためです。
- 既存の宅急便から新商品への移行については、期首の目論見に比べ非常に少ないと認識しております。

Q3 今回発表した自己株式取得と消却について、このタイミングで発表した理由と、今後の資本政策の方針を教えてください。

- このタイミングで発表した意図としては、新しい経営体制においても、株主還元の考え方や、ROE目標に対する考え方が変わらないことを示すためです。
- 2020年3月期を期限とした長期経営計画における、ROE11%という目標に向けた重要な中間目標であるROE9%を達成するためには、利益の増加を図りつつ資本政策も積極的に行う必要があると認識しており、今回の自己株式取得、消却もその一環でございます。

以上